

## 京都で発生した再出火について - 西日本防災システム

2013 05 20

昨年8月に京都市左京区の旅館火災で鎮火5時間後に**再出火**するという火災がありました。この建物は老朽化した屋根の上に屋根を重ねて改修していたため隙間の残火から延焼した可能性が高いことが、京都市消防局の調査でわかりました。屋根内に滞留した可燃性ガスで一気に燃え広がったようです。建築関係者によりますと、京都の町家では同様の**二重屋根**はそう珍しくなく、専門家は注意を呼び掛けているようです。

**火災概略**： 火災は2012年8月23日午後9時40分頃に発生しました。岡崎入江町の「スリーシスターズイン」2階客室約50㎡が焼損して約40分後に鎮火が確認されました。ですが翌24日午前3時5分頃再び出火し、2階全体の約150㎡が焼損して、6時頃に鎮火しました。最初の出火原因は電気のショートと同局はみているようです。

市消防局は昨年9月、**再出火**の原因調査のため検討委員会を設置し、このほど報告書をまとめました。

調査によりますと、旅館は明治時代の建物で1970年代から増改築を繰り返していたようです。スレート屋根が老朽化し、雨漏りが発生したため、既設屋根の上にスレート屋根を覆って補修したようです。今回の火災では最初の消火後に屋根の隙間に火種が残り、長時間くん焼状態となったようです。その後、熱で屋根材が貫通して通気性が高まり、「フラッシュオーバー現象」が起きたと推定しているんだそうです。無炎のまま、くん焼で発生していた可燃性ガスに引火し、燃え広がったとしています。

検討委が行った建設業者への聞き取り調査によりますと、改修の際に撤去費用を省くため古い屋根を取り除かず上から覆う工事は珍しくなく、違法性もないようです。

市消防局は今後、携帯用熱画像カメラやヘリからの赤外線カメラを活用し、鎮火後の残火確認を徹底するとしています。

京都の古い町家には相当数、同じような二重構造の屋根が存在するとみられるそうです。複雑に増改築された建物では、小さな残り火の確認が難航する場合もあるようです。費用のこともありませんし、一概に「このような**二重屋根**は改修を」とはいかないのかもしれませんが、まず御自分の建物の構造を再確認することから始められたらいかがでしょうか。

**恐るべし 再出火**



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

